普天間未来基金の活用方法

普天間未来基金については、寄附をいただいた皆様のご希望を尊重し、基地跡地利用の推進のため、活用してまいります。

1）駐留軍用地跡地利用の推進に向けた基盤整備事業等に係る費用

2）駐留軍用地跡地利用の推進に向けた調査及び機運醸成に係る費用

3）駐留軍用地跡地利用の推進に向けた本市の未来を担う人材育成に係る費用

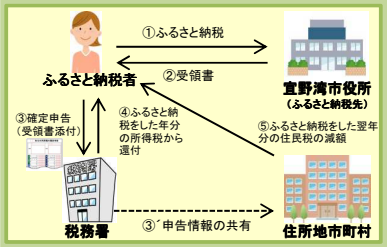
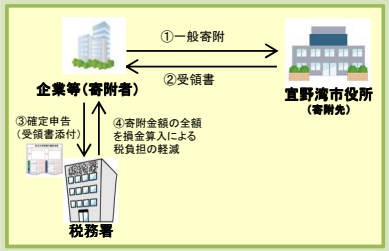
4）その他市長が駐留軍用地跡地利用のため必要と認める事業

中学生海外短期派遣事業

留学先（シアトル）

ストーリーコンテスト

普天間未来基金への寄附の種類及び手続き

寄附の種類	内　容	寄附の手続き
①宜野湾市ふるさと応援寄附 （ふるさと納税） 窓口：企画政策課	宜野湾市ふるさと応援寄附条例第2条に掲げられているうち「基地跡地利用の推進に関する事業」に指定された寄附	 ※ワンストップ特例制度 確定申告が不要な給与所得者等について、ふるさと納税先が５団体以内の場合に限り、ふるさと納税先に特例の申請することにより確定申告不要で控除が受けられる手続きの特例
②一般寄附 （企業等） 窓口：まち未来課	宜野湾市ふるさと応援寄附によらない寄附	 普天間未来基金の趣旨に賛同し、一般寄附をされる場合にあっては、まち未来課までお問い合せ・お申込みください。

【問い合せ先】

〒901－2710　沖縄県宜野湾市野嵩一丁目1番1号

担当：基地政策部　まち未来課（一般寄附に関すること）　☎ 098-893-4411（内線308・309）

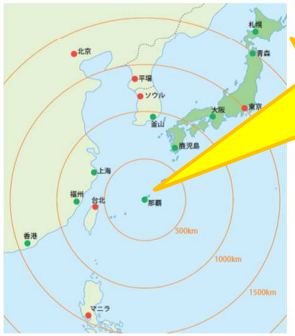
担当：企画部　企画政策課（ふるさと応援寄附に関すること）　☎ 098-893-4411（内線416・417）

普天間未来基金

～基地跡地に未来を～

平成30年7月改訂版

【現在の普天間飛行場】



【未来の普天間飛行場跡地（イメージ）】

宜野湾市の中心に位置する普天間飛行場は、その危険性ゆえに日米両政府において返還合意がなされましたが、合意後20年以上経った今もなお返還は実現されておらず、市民は航空機事故の危険性や騒音等の被害を強いられております。

一方で普天間飛行場は、視点を世界に広げて見ると、東アジアと日本本土の中心に位置しているという地理的特性から、その跡地利用は、沖縄振興の発展はもとより日本経済の起爆剤になるものと確信しております。

戦後70年以上にもわたり存在し続けてきた結果、これまで日本の安全保障の一端を担ってきた普天間飛行場ですが、返還後には日本経済の成長の一翼を担うフィールドへと新しく生まれ変われるよう宜野湾市では、一日も早い返還を実現し、未来ある跡地利用の推進のため取り組んでいます。

しかしながら、普天間飛行場をはじめとする米軍基地の跡地利用は、大規模な土地区画整理事業等が必要となり多額の財政支出が生じるため、今後の跡地利用に要する市の財政負担は計り知れないものとなることから、将来に備えるため普天間未来基金を創設することとしました。

普天間未来基金は、皆様から頂いた寄附金を原資として積立てることにより、跡地利用に伴う将来の財政需要に備えるとともに、大きな可能性を秘めた基地跡地というフィールドにおいて活躍することとなる未来を担う人材育成などに活用していきたいと考えております。

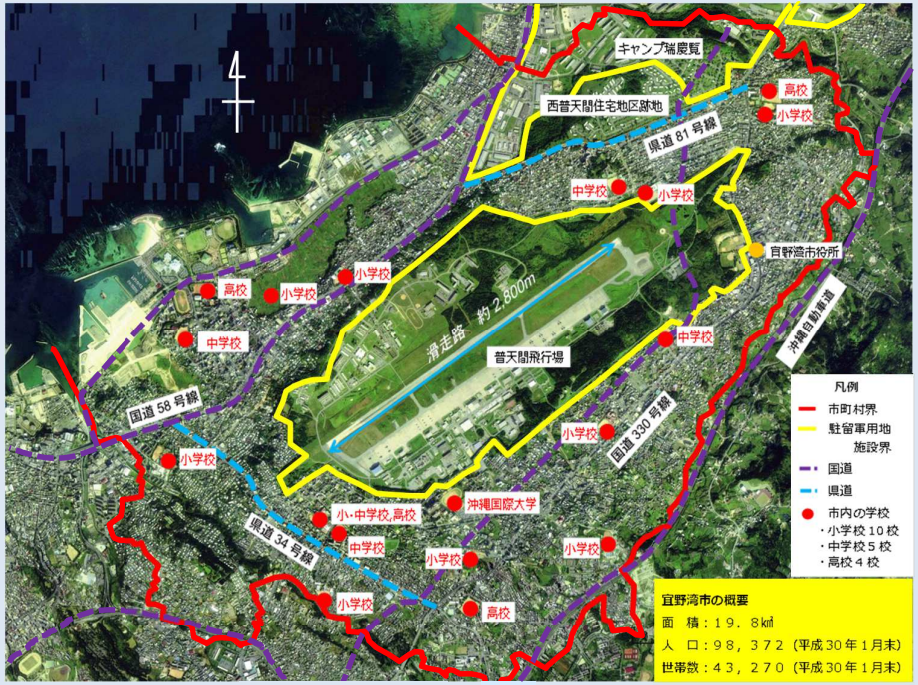
宜野湾市が置かれた現状をご理解いただくとともに、「基地跡地が日本の宝」となるよう取り組んで参りますので、宜野湾市の応援団として全国の皆様のお力添えをお願いいたします。

平成29年7月1日

宜野湾市長

佐喜眞 淳

宜野湾市の基地の現状



沖縄県中南部に位置する宜野湾市は、普天間飛行場がまちの中心部に存在しているため、いびつな都市形成となり、市民生活・市財政に大きな影響を及ぼしております。
また、普天間飛行場の周囲には学校や公共施設などが約120ヵ所存在し、市民は絶えず墜落の危険性と騒音被害などの基地被害にさらされております。

普天間飛行場の面積

476．3ha　（東京ドーム約100個分）

普天間飛行場は、市の中央に位置し、市面積（約19.8ｋ㎡）の約25%を占めています。また、市の北側にあるキャンプ瑞慶覧の面積（約1.059km²）も合わせると市面積の約30%が米軍施設によって占められています。

年間騒音発生回数

10，947回

市の中でも特に騒音発生回数が多い上大謝名地区では、1日当たり30回もの騒音が測定されており、基地周辺では、日常的に騒音にさらされた生活を余儀なくされており、住民にとって大きな負担となっています。

宜野湾市の人口密度（平成30年1月末現在）

約4,968人/㎢

基地の面積を除くと．．　約7,038人/㎢

基地を除いた市の人口密度は、東京都（約6,169人/ｋ㎡）や大阪府（約4,640人/ｋ㎡）を上回っています。
（東京都、大阪府の人口密度はH27国勢調査より）

基地と財政

5．9%

市の一般歳入額に占める基地関係収入の割合は、平成28年度においてわずか5.9%となっております。基地があることによって、都市計画や施設配置に影響を及ぼしており、市の経済発展を阻害する要因にもなっています。

基地跡地利用の推進に向けた取り組み

●普天間飛行場

○ 宜野湾市及び沖縄県は、平成24年度に「全体計画の中間取りまとめ」を策定し、その後の跡地利用計画の策定に向け取り組んでいます。

○ 沖縄振興の舞台となる「緑の中のまちづくり」や100haを超える大規模な公園の整備、鉄軌道を含む新たな公共交通軸の検討などを行っています。

○ プロモーションビデオを作成し、ホームページ等で市民・県民・地権者に対し周知活動を行っています。

動く！普天間飛行場跡地未来予想図
http://www.pref.okinawa.jp/futenma-mirai/

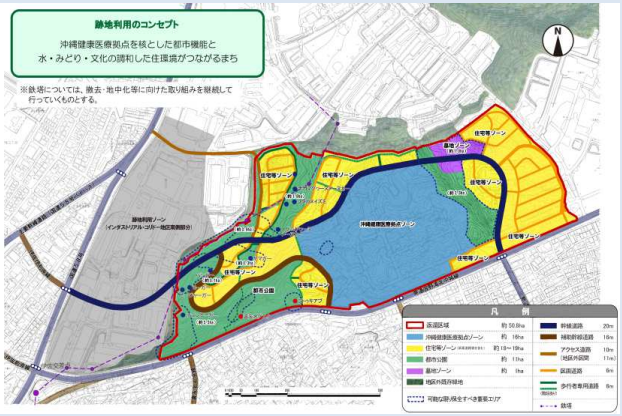
未来の普天間飛行場跡地（イメージ）

●西普天間住宅地区跡地

○ 平成27年３月に一部返還されたキャンプ瑞慶覧の西普天間住宅地区（約51ha）では、平成27年７月に跡地利用計画を策定し、平成30年４月に一部変更を行いました。

○ 国際性・離島の特性を踏まえた沖縄健康医療拠点の形成に向けて、琉球大学医学部及び同附属病院の移設を中心に取り組んでいます。沖縄健康医療拠点では、日本及び沖縄の健康医療の状況を踏まえ、「高度医療・研究機能の拡充」「地域医療水準の向上」「国際研究交流・医療人材育成」の３つを柱として整備を進めています。

キャンプ瑞慶覧（西普天間住宅地区）　跡地利用計画　平成30年4月



●人材育成・意向醸成活動

○ 平成29年度に市内小中学校の児童・生徒から普天間飛行場跡地～ゆめのあるぎのわんのみらい～を題材にした絵画コンクールを実施しました。

○ 未来を担う子供たちが跡地利用について考え、画用紙いっぱいに「夢」のあるまちが表現されています。

大賞作品（新しい宜野湾市 ～笑顔いっぱい～）

大賞作品（まいにちがハッピーなまち）